

令和4年度全国学力・学力状況調査について
～吉野東小学校の結果と今後の取組～

吉野東小学校

4月19日(火)に小学6年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査(主催:文部科学省)の結果をお知らせします。

- 1 学力状況調査とは
- ・国語と算数で「知識」と「活用」を一体的に問う問題が出題されます。
 - ・結果は点数ではなく、学校、都道府県、全国の正答数及び正答率%で表されます。
 - ・児童個人には、個人表を配布されます。学校には教科全体と各領域の平均値(学校、県、全国)が提供されます。
- 2 学習状況調査とは
- ・生活習慣や学習に対する考えなどを選択式で実施します。
 - ・結果は項目ごとに分布率%(学校、県、全国)が提供されます。

1 学習状況調査の概況

(1) 国語

	平均正答率(%)、()内は本校との差
本 校	65
鹿児島県	66 (+1.0)
全 国	65.6(+0.6)

(2) 算数

	平均正答率(%)、()内は本校との差
本 校	61
鹿児島県	63 (+2.0)
全 国	63.2(+2.2)

(3) 理科

	平均正答率(%)、()内は本校との差
本 校	65
鹿児島県	67 (+2.0)
全 国	63.3(-1.7)

本校は、国語・算数ともに平均正答率は、県及び全国の平均を下回っています。また、理科については、県平均は下回っていますが、全国平均は上回っています。正答数の分布は、上位が少なく、中位及び下位の児童が多くなっています。

(2) 分類・区分ごとの正答率

ア 国語

		本校:()は県比	県	全国	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	68.6(-2.5)	71.1	69.0
		(3)我が国の言語文化に関する事項	83.4(+1.3)	82.1	77.9
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	61.0(-4.0)	65.0	66.2
		B 書くこと	50.6(-0.3)	50.9	48.5
		C 読むこと	63.5(-0.9)	64.4	66.6
評価の観点	知識・技能	71.1(-1.9)	73.0	70.5	
	思考・判断・表現	59.7(-1.5)	61.2	62.0	
問題形式	選択式	70.1(-0.2)	71.3	71.8	
	短答式	64.5(-2.7)	67.2	63.6	
	記述式	49.9(-1.7)	51.6	51.3	

「(3)我が国の言語文化に関する事項」以外は、県平均を下回る結果となった。特に、「A話すこと・書くこと」の落ち込みが大きい。その他は、大きな落ち込みは見られなかった。

イ 算数

		本校：()は県比	県	全国
学習指導要領の領域	A 数と計算	69.4(-2.5)	71.9	69.8
	B 図形	59.0(-3.1)	62.1	64.0
	C 変化と関係	50.0(-0.3)	50.3	51.3
	D データの活用	66.1(-0.5)	66.6	68.7
評価の観点	知識・技能	67.0(-1.2)	68.2	68.2
	思考・判断・表現	53.5(-2.4)	55.9	56.7
問題形式	選択式	47.1(-2.5)	49.6	51.8
	短答式	75.3(-1.9)	77.2	76.5
	記述式	60.7(-0.4)	61.1	60.2

全ての内容、観点について、県平均を下回る結果となった。落ち込みが見られた内容領域は「A 数と計算」「B 図形」、観点では「思考・判断・表現」、問題形式では「選択式」で落ち込みが目立っていた。

ウ 理科

		本校：()は県比	県	全国	
学習指導要領の 区分・領域	A 区分	A「エネルギー」を柱とする領域	51.5(-1.1)	52.6	51.6
		B「粒子」を柱とする領域	68.0(-1.2)	69.2	60.4
	B 区分	C「生命」を柱とする領域	74.3(-2.5)	76.8	75.0
		B「地球」を柱とする領域	66.5(-3.3)	69.8	64.6
評価の観点	知識・技能	71.6(+0.2)	71.4	62.5	
	思考・判断・表現	61.2(-3.3)	64.5	63.7	
問題形式	選択式	66.0(-2.5)	68.5	66.8	
	短答式	79.9(+0.2)	79.7	66.2	
	記述式	45.9(-2.6)	48.5	47.3	

県平均との比較では、観点では「知識・技能」及び問題形式では「短答式」で上回る結果となった。その他の領域・観点・形式では、県平均を下回っていた。

2 学習状況調査の概況

- (1) 「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えた児童が全国平均と比べて、6 ポイント以上高かった主な項目(プラスポイント)
- 学校に行くのが楽しいと思いますか。(+6.5)
- (2) 「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えた児童が全国平均と比べて、6 ポイント以上低かった主な項目(マイナスポイント)
- 自分には、よいところがあると思いますか。(-6.7)
- 読書は好きですか。(-6.0)
- 今、住んでいる地域の行事に参加していますか。(-17.5)
- 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか。(-12.8)

□ 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。(－14.9)

□ あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。(－9.8)

本校の子供たちは、学校に行く楽しさを感じている子供が多いことが分かる。これまでの教師の関わりで、学校が楽しい場所であることを十分に認識している証だと思われる。

一方で、地域社会への参画意識が少なく、身の回りの問題について話し合っ解決するという機会が少ない様子が見受けられる。また、自分がもっている「よさ」について自覚する割合が低くなっており、自己肯定感が低いままの子供がいることも懸念される。

3 学力向上に向けての本校の課題と今後の取組

以上の結果から、本校では次のような取組を行い、児童一人一人の学力向上に努めていきます。

【 課題 】

【 今後の取組 】

① 「学びに向かう構え」が子供一人一人に十分に育っていないのではないか。それを育てていく取組が不足しているのではないか。



□ 本校の「吉野東学習スタンダード」を再確認し、その徹底を図ります。
・授業前の全体での確認
・管理職による確認

② 子供が獲得した知識や技能を子供一人一人に表現させる取組とその見届けが不十分ではないか。



□ 終末段階において、子供たちが自分の考えを、本時で学ぶべき知識や技能を使っ的確に表現する時間(振り返り)を確保します。
・振り返りの時間の設定
・教師による見届けと個に応じた指導の徹底

③ 個々の習熟の程度の的確な把握と、個に応じたきめ細かな指導が不十分ではないか。



□ 個々の力(課題)を見届け、場と時間を確保し(家庭学習を含めて)繰り返し、粘り強く、できるまで指導します。
・全国学力調査の過去問、アシストシート等の活用
・タブレットを使ったAIドリルの効果的活用

④主体的に「読んで、思考し、表現する」という言語活動が不十分ではないか。



- 子供たち同士が多様な意見を出し合い、考えを広めたり、深めたりする「学び合う場」を設定します。
 - ・話し合いのルール作り
 - ・目的に応じたグループ編成
 - ・子供の思考の想定と可視化

⑤ 学校の授業改善に対する組織的な取組が不十分ではないか。



- 学年学び合いタイム(毎週金曜日)を設定し、授業づくりの視点をもとに教師が協働して、継続的に授業改善を進めます。
 - ・研究授業の実施(学期1回以上)
 - ・小中一貫教育の推進(合同研修)

⑥ 地域への関わりや愛着を育てる教育活動が不十分ではないか。



- 地域への愛着や誇りをもてるような教育活動を推進し、ふるさとを愛する子供を育てていきます。
 - ・「吉野東の教科書」作成
 - ・地域人材の積極的な活用

⑦ 学習支援に関する家庭の関心や支援が不十分ではないか。



- 教育相談や学級PTAをとおして現状を説明するとともに、学習の重要性について一緒に考え、取り組みます。
 - ・保護者による家庭学習の見届け
 - ・メディアに接するルールづくり